

### コスパを意識



取得した資格：1級土木施工管理技士  
資格取得年度：令和元年度

くずかわ はるき\*  
葛川 晴生\*

#### 受験の動機・経緯

私は八戸圏域水道企業団の工事担当課に配属され、水道工事の設計・監督業務を行ってきました。

当時私は20代前半で、協議の相手となる受注者の現場代理人さんは倍以上の年齢の方が多く、私が未熟であることを感じさせられることが度々ありました。

「発注者と受注者は対等な関係」、この言葉を意識して日々仕事を行っていましたが、現場で起こるさまざまな課題に対して、「受注者と比べ知識・経験が足りない状態で対等であるのだろうか」、「この差を少しでも埋めるためにはどうすればよいか」と考えることがありました。

そんななかで目に留まったのが、現場代理人経歴書に記入されていた“1級土木施工管理技士”の文字でした。

「これを自分も取ったら、受注者とより近い位置で、より充実した設計・監督業務が行えるのではないか」、そう思ったことが受験をするきっかけでした。

#### 学科試験における対策

まず、合格した先輩方から受験の感触を聞いたり、受験の手引きを調べたり、この試験はどのような問題が出るのか、どのような流れで受験をしていくのか、ということを確認しました。

続いてテキストですが、さまざまな基準や規則、名称が目まぐるしく変わっていくなかで、最新のテキストを使うことが一番だと感じました。

実際に行った勉強方法ですが、とにかく過去問を繰り返し解いてみることを続けました。水道工事の設計・監督しか経験してきていない私にとって、解くことのできる問題はほとんどありませんでした。しかし、最初の点数が低くても、解くことのできなかった問題に関して、そもそもどういうことなのかということから理解するためにその定義を調べてみることを続けていきました。過去問集一冊をすべて解き終わる時間は、一周目より二周目、二周目より三周目の方がどんどん速くなっていくため、問題を解くことがどんどん楽になっていくように感じました。また、何周もすると問題に慣れるため、次第に点数は高くなっていきました。過去問の比率が高い試験に対しては有効な勉強方法ではないかと思います。

勉強方法に関しては人それぞれではありますが、要点をノートにまとめる、暗記することを行っていくのは時間が多くかかりますし、意外と覚えていないことも多いと思います。過去問を解き、わからないところは要点を確認して理屈を理解していくことが一番時間がかからず、“コスパ”の高い勉強方法だと感じました。

\*八戸圏域水道企業団 工務課 技師

## 実地試験における対策

実地試験のメインとなるのは、経験記述だと思います。ここの精度を上げていかないと合格はないと思われま

す。記述する内容に関して、学科試験の勉強をしてくなかで、“何を記述すればいいのか”はわかってきていると思うので、その内容を当てはめ易そうな工事を思い出して文章にしていくのが良いと思います。また、経験記述には課題が3つほど用意されていますが、どの課題でも同じ工事について記述すること、具体的な数字を文章に組み込むこと、学科試験で出てきたような単語を多く使用していくこと、そして、合格している先輩方に何度も何度も添削をもらうこと、これをするによって自ずと合格に近づく文章が出来上がっていくのではないかと思います。あとは課題ごとに作り上げた文章を何度も書き続け覚えることで、経験記述に関してはクリアできるかと思

います。続いて選択問題についてですが、こちらは学科試験と同様に過去問集を何周も解くことが近道かと思

## 受験して感じたこと

実際に受験し、合格してみて何か変わったかと言われると、現場での問題に対する対応がスムーズになったように感じました。それよりも試験勉強中の方が、「あの時話していた事はこういう事だったのか」、「こういう問題点もあったのではないか」など、これまでのことを思い出しながら、自分が知識として吸収していることを強く感じました。こういう経験が試験勉強中のモチベーションの維持に繋がりました。

また、ある受注者の現場代理人の方が、私も今回受験しますと声をかけてくれたこともあり、程よい

楽しさとプレッシャーを感じながら臨むことができました。

## 受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

私の場合、経験年数をクリアする必要があったため、受験まで多少時間がありました。そのため勉強期間中の中だるみなどが不安でしたが、家族の協力があったの試験勉強の時間、なるべく無駄にはしたくないという気持ちもあり、絶対一発で合格するという強い気持ちで臨むことができました。

いかに効率よく、少ない時間で、負担を少なく合格できるかを考えながら勉強していきました。多くの参考資料や問題集、スマートフォンアプリなど、勉強道具はたくさんありますが、なるべく少ない道具で濃い勉強をするほうが私には合っていたように思います。また、毎日持ち歩く勉強道具も少ない方が気が楽になるように思います。

何事でもそうですが、苦しい期間は短い方が良いです。勉強期間も同じだと思います。

自分のため、家族のため、仕事のため、受験する動機は何でも良いと思います。そしてその動機を強いものにするために、家族の協力への感謝や周りの方からプレッシャーをもらうなど、出来るだけ速く合格するという気持ちを作ることが大事かなと思います。

最後になりますが、受験を支えてくれた家族や先輩方に感謝するとともに、この資格にかかわらず、試験勉強中にある方、これから臨もうとする方、あまり資格は要らないかなと考えている方でも、何かにチャレンジするきっかけになれば幸いです。

【著者紹介】 葛川 晴生（くずかわ はるき）

八戸工業高等専門学校建設環境工学科を卒業。平成26年八戸圏域水道企業団入庁（土木職）。工務課で上水道の設計・監督業務を経て現職。